

校内研究を通じた推進リーダーの役割の明確化

伊勢原市立緑台小学校
柏木 裕子

世界の教育改革の潮流はコンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへの転換であり、日本でも新学習指導要領で、外国語教育の強化、特別の教科道徳の実施が示され、これまでの知識偏重型から脱却し、思考力や表現力を主体的に育むアクティブラーニングを重視する方針を掲げている。所属校でも新学習指導要領実施を踏まえ、新しく入ってくる課題に対応するため、教育課程の見直し、外国語活動・外国語、特別の教科道徳の授業実施に向けた準備を進めてきた。学校全体で新たな課題にどう対応していくかを効果的に考え、推進していくことが課題となっている。そこで、本研究では所属校の課題の一つである学校全体で取り組む「特別の教科道徳」の指導を充実させるために、どのような手立てが必要か校内研究を推進するリーダーの取り組みに着目し、その役割を明らかにする。研究方法は次の3つである。

- ①学習する組織にもとめられるリーダーとその役割について整理する
- ②リーダーについて、B小学校とC中学校の事例を分析して推進するリーダーの具体的な役割を探り出す
- ③この役割の有効性について、A小学校の取り組みから検証する

2章では、ピーター・M・センゲの説く「学習する組織」の考え方に触れ、学習する組織になるために推進するリーダーが必要なこと、そのリーダーとはどのようなリーダーなのかということ整理した。そして、実際に学校ではどのような取り組みが行われているのか研究先進校2校の実践について、学習する組織におけるチームの中核的な学習の能力の視点から分析した。その結果、両校とも5つのディシプリンと対応して実践していたことが分かった。そして、そこから推進リーダーの役割として共通している10項目を抽出した。

ピーター・M・センゲ 学習する組織におけるチームの中核的な学習能力と5つのディシプリンと各校の実践リスト

5つのディシプリン	B小学校実践のリスト化	C中学校実践のリスト化	各校のリスト化から抽出したリーダーの役割10項目
(1) 自己マスタリー	6. ビジョンをイメージ化する 9. 自らの主張を明確にした授業研究 17. 校長による授業相談、道徳の発行 19. 自らの授業の再検証	8. 育てたい「姿」の共有 10. 職員の実践が伴うことを大切に 11. 主観にせざる授業の改善を希望 12. 「気づき」を促す方向にこだわる 14. 学習組織を再構築する	⑤戦略・手立てを決める ④共有ビジョンをつくる
(2) 共有ビジョン	6. 必ず子ども像の共有化 6. ビジョンをイメージ化する 7. 「学校を志すよう」会議 17. 校長による授業相談、道徳の発行	15. 校長による研究道徳の発行 8. 育てたい「姿」の共有 9. 研究主題を志す 15. 校長による研究道徳の発行	③あらゆる課題をリンクさせ、研究の方向性を決める
(3) メンタルモデル	8. 研究主題の指定に1年かける 9. 自らの主張を明確にした授業研究 11. 教員指導案の導入	2. 課題をイメージした計画 3.C中学校の「目さし」課題の取組 6. あらゆる課題をリンクさせ、研究の方向性を決めた 7. 生徒の課題を見い出す 13. 担任の協力体制をコーディネートする	⑥次のリニアリーダーを育成する ⑦充実した研修会を実施する
(4) ダイアログ (チーム学習)	1. 校内研究の課題を話し合う 2. 研究の授業とは 4. 主体的な学習にするには 7. 「学校を志すよう」会議 9. 自らの主張を明確にした授業研究 10. 講師からの指導 11. 教員指導案の導入 12. 研究授業の導入 13. 研究授業の課題について 14. ファシリテーションアプロアックの導入 15. 研究道徳の導入 16. スループット研修 18. 授業公開 20. 子ども像の共有化	14. 学年組織を活用する 16. 推進委員に役割を与える 17. 推進委員が学習をする 18. 児童のある研修会をする 19. C校にマッチする課題の選定 20. 生徒の実践をデジタル 21. 授業の有効性を見つける 22. 授業者の意図を大切に授業案検討 23. 授業の進め方がわかる「パネルディスカッション」を取り入れた公開授業 24. 全体協議、役割分担を明確に示す	⑧研究について中間のフィードバックをする ⑨研究授業の計画と運営
(5) システム思考	2. 子ども像の共有化 1. 校内研究の課題を話し合う 2. 研究の授業とは 3. 数々の授業には 4. 主体的な学習にするには 7. 「学校を志すよう」会議 8. 研究主題の指定に1年かける	1. 過去の研究について 2. 課題をイメージした計画 3.C中学校の「目さし」課題の取組 4. あらゆる課題をリンクさせ、研究の方向性を決めた 7. 生徒の課題を見い出す 15. 校長による研究道徳の発行 25. 研究道徳の発行を繰り返す 26. 研究の組織をまとめる	①テーマをとりまく現状を把握し、過去の研究の課題を洗い出す ②学校の強み・弱みを分析し、研究を進める上での課題を把握する ⑩全てのスケジュールを管理する

(※リスト化の番号は実践を時系列で示した番号、複数のディシプリンへの重複対応もあ)

3章では、この10項目が有効であるかを所属校の実践を通して明らかにしていくこととした。今年度の取り組みの主な3点「めざす子ども像の共有化」「研修会の実施」「授業研究の実施」について詳細を記した。実践からよい面が見られた反面、学習する組織におけるチームの中核的な学習能力の「複雑性の理解」、「システム思考」が弱いという課題が明らかとなった。それぞれの実践が単発的にならないよう、複雑に関連し合いながら共有ビジョンのもと、5つのディシプリンがバランスよく高まっていくことが重要となる。今後も推進リーダーが役割を自覚して実践を積み重ね、よりよい学校を築いていきたい。

センゲ 学習する組織におけるチームの中核的な学習能力と5つのディシプリンとA小学校推進リーダーの取り組みの対応表

学習する組織におけるチームの中核的な学習能力	5つのディシプリン	両校のリスト化から抽出したリーダーの役割10項目	A小学校の推進リーダーの取り組み(⇒学校の取り組み)
志の育成	(1) 自己マスタリー	⑤戦略・手立てを決める	⑤戦略・手立てを決める
	(2) 共有ビジョン	④共有ビジョンをつくる	④共有ビジョンをつくる (めざす子ども像の共有化)
	(3) メンタルモデル	③あらゆる課題をリンクさせ、研究の方向性を決める ⑦次のリニアリーダーを育成する ⑦充実した研修会を実施する	③あらゆる課題をリンクさせ、研究の方向性を決める ⑦充実した研修会を実施する
	(4) ダイアログ (チーム学習)	⑧研究について中間のフィードバックをする ⑨研究授業の計画と運営	⑧研究について中間のフィードバックをする ⑨研究授業の計画と運営
	(5) システム思考	①テーマをとりまく現状を把握し、過去の研究の課題を洗い出す ②学校の強み・弱みを分析し、研究を進める上での課題を把握する ⑩全てのスケジュールを管理する	①テーマをとりまく現状を把握し、過去の研究の課題を洗い出す ②学校の強み・弱みを分析し、研究を進める上での課題を把握する

注) A小学校の推進リーダーの取り組みで、白抜き(●)番号は一部実施・関連させて実施したもの、二重丸(◎)数字は効果的に行ったもの、丸数字(○)はさらに工夫しながら深めていく必要のあるもの。矢印は関連を表す。